

継続事業 **東ティモール**

学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業(第3期)

ー アジアで一番新しい国の農村部の人たちに生きるチカラを届ける ー



活動地域: 東ティモール全13県
 事業期間: 2022年7月～2027年6月(5年間)
 事業規模: 当年度支出額694千円(総事業規模: 7,670,608ドル *他ドナー資金を含む)
 主な支援者: 企業、個人

103,967 世帯

成人向け「ラファエック」の配布世帯数

1,617 校

未就学・低学年向け「ラファエック」を配布した学校数

150,260 人

「ラファエック Facebook」フォロワー数



課題 アジアで一番若い国である東ティモール。2002年にインドネシアから独立するまで、16世紀から続く諸外国からの支配により、子どもたちは自国の文化、歴史、そして地理さえも学ぶことが禁じられていました。独立をめぐる闘争においては、95パーセントもの学校が消失。多くの尊い命も失われ、独立後、人口の半数以上が就学年齢の子どもたちとなりました。独立から21年が経ち、成人の識字率に改善は見られるものの、子どもたちの就学率や退学率においては課題が残り、特に農村地域における状況は深刻です。農村地域では、十分な識字能力や計算能力を身に付けることができないため、経済活動や家計の管理に支障をきたし、親の識字能力の低さが子どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響を及ぼしています。

活動内容 2022年7月～12月の半年間で、成人向け、未就学・小学校低学年向け、小学3～6年向け、教員向けの4種を制作し、全13県で2回配布しました。モニタリングの結果、「ラファエック」を使用している生徒は、そうでない生徒に比べ読解力が5パーセント高いことがわかりました。また、使用していない生徒よりも、7文字多く識別できることもわかりました。家庭レベルでは、「ラファエック」を読んでいる人は、そうでない人に比べ貯蓄率が13パーセント高いことが判明しました。また、オンラインサービスの拡充を図り、Facebookのフォロワーは、東ティモールで5番目に多い数を獲得しました。その一方で、課題として、納期の短縮化が求められています。雑誌を海外で印刷しているため、発注から首都ディリまでの輸送に2か月を要しています。国内での印刷の可能性を模索する過程で、東ティモールに供与された印刷機の活用について教育省と協議するも、印刷機の維持管理に追加コストがかかることから教育省の負担が大きく実現に至っていません。

「ヤング・ジャーナリスト」によるインタビュー



「ラファエック」を読んでいる生徒が「ヤング・ジャーナリスト」となって、地域のリーダーにインタビューすることもこの事業の活動の一つ。

障がいを持つウェルシアナさんとアントニオさんもヤング・ジャーナリストとして、東ティモール青年国民会議所のマリア・ダディ・ソアレス・マグノ会長に「市民社会組織における女性のリーダーシップと意思決定の促進」について取材しました。会長から「体が不自由だからといって希望を失うことなく、夢と可能性を持って目標に向かって進んでください。私たちは家族、社会、国家の中で皆平等です」というメッセージをいただきました。

この活動は、女性の発言力、リーダーシップ、意思決定、ジェンダー平等などに関連する重要なメッセージを伝えることを目的としています。また、若い生徒たちがジャーナリズムの実践的な経験を積み、自尊心、自信、人前で話す能力を高め、ロールモデルとして他の生徒たちを鼓舞することにつながっています。